

## 第203回 「元気に百歳」クラブ「道草」(第12回通信句会)開催

コロナ感染症の感染者数が減少、この一か月は二桁の数値に治まっており、これを本物と見ても良いのかと、疑問を持ちつつも、「どうぞこの数値が続いて下さい」と、秘かに祈っている今日この頃です。11月5日には、久しぶりに「新橋ぼる一んに集合」の招集がかかりました。目的は、皆さんに発刊間もない200回記念の句集を、配布することでしたが、本当に久しぶりに皆さんと会うことが出来て、笑顔、笑顔の交換になりました。

参加されたメンバーは、芦川創風さん、井上蒼樹さん、太田一光さん、奥田和感さん、高瀬荻女さん、辻柴楽さん、中島憧岳さん、原晶如さん、本間傘吉さん、芦尾白然の10名でした。

句会は開かずに、雑談スタイルの、言わば懇談会でした。前回のオンライン会議でも話題になった「句の文体が文語体形式か、口語体形式かの問題について」と、「送り仮名の問題や季語のこと、兼題と季節の関係」などが話題になりました。それともう一つ、今、巷に無料の通信俳句アプリ「夏雲」システムがあります。私たち「道草」でも使えるシステムかどうか、有志でテストして見ようということになり、テストの方法が話されました。

11月も通信句会で、11月1日に、奥田さんから「兼題提示」があり、その後、本間さんに「投句一覧表」の作成から「選句結果のまとめ」まで、皆さんが期日前に投句、選句を済ませた証左ですが、本間さんは11月11日、予定日より3日も早く、例によってイラスト入りの素晴らしい「選句結果のまとめ」を作成して下さいました。

今月の兼題は、兼題1「冬めく」、兼題2「山茶花」、当季雑詠の自由題「冬」の3句を詠むことでした。皆さんが選句された天賞句と最多得票賞(☆印)句は下述の通りです。ご高覧下さい。

### 兼題1. 「冬めく」

◎『冬めくや目覚めのモカはたつぷりと』	荻女	天1
◎『冬めきて流れの細き大河かな』	清助	天1
◎『冬めくや水琴窟の韻仄か』	栄女	天1
◎『冬めくや石庭の石眠るごと』	明峰	天1
◎『冬めきて熱き番茶の旨さかな』	多佳	☆9

### 兼題2. 「山茶花」

◎『箒目に密と山茶花零れ散る』	傘吉	天2
◎『山茶花や小使さんの鳴らす鐘』	荻女	天1
◎『山茶花を覗き込む目に隣り人』	憧岳	天1
◎『山茶花の紅鮮やかな長屋門』	蒼樹	☆7

### 当季雑詠の自由題 (=冬=)

◎『星冴ゆるひとり夢見る露天風呂』	創風	天3
◎『庭師入る鉄の音や冬支度』	歌多音	天2
◎『何よりも干せし布団の陽の匂ひ』	晶如	天1☆9
◎『何がなし十一月が好き程良くて』	月草	天1
◎『曖昧な秋の記憶はセピア色』	栄女	天1

兼題1. では、荻女さんの句「冬めくや目覚めのモカはたつぷりと」が、高得票で天賞一つを獲得しました。この句は「中七、下五」に「目覚めのモカはたつぷりと」を配して、冬の朝の充実感を表しました。天賞推挙の評者の言葉にも「今日も元気で珈琲美味し」とありました。次に清助さんの句「冬めきて流れの細き大河かな」が、天賞一つを獲得しま

した。川の水量が少なくなり、大きな川の流れが細くなっている現状を「流れの細き大河かな」と捉えられました。この「大河」と「流れの細さ」の対比が、選者の共感を得られたのだと思います。次に栄女さんの句「冬めくや水琴窟の韻仄か」が、天賞一つを獲得しました。旅に出なければ生まれなような句であり、中七、下五の「水琴窟の韻仄か」が、読者には聞こえて来るように思われたのでしょうか。しかもその韻が、冬を迎える寒さ、寂しさを感じさせたのでしょうか。次に明峰さんの句「冬めくや石庭の石眠るごと」が、天賞一つを獲得しました。無言の石庭の石との対面、時間が経過するにつれ、作者は寒さと孤独感の中で、石が眠っているように感じられたのでしょうか。天賞推挙の評者も、そのことを書かれています。天賞は付きませんでした。多佳さんの句「冬めきて熱き番茶の旨さかな」が、最多得票賞を獲得しました。この句には説明の必要がありません。番茶から立ち上る湯気が見えてくるようで、茶の香と旨さが伝わってきます。

兼題2. では、傘吉さんの句「箒目に密と山茶花零れ散る」が、天賞二つを獲得しました。木から離れれば、赤い山茶花の花片も寂しいもの、ここは寺院でしょうか。お坊さんの掃かれた箒目に隠れるように落ちている。選者は感じられる静かな雰囲気と、寂しさに共感されたのでしょうか。次に荻女さんの句「山茶花や小使さんの鳴らす鐘」が、天賞一つを獲得しました。この句は昔の学校風景だと思われま。作者は校庭の・・・というより小使さんの部屋の近くにあった山茶花軒を思い出されているのかも知れません。次に懂岳さんの句「山茶花を覗き込む目に隣り人」が、天賞一つを獲得しました。隣家の山茶花の花でしょうか。覗き込んでいるうちに、隣家の住人が出て来られて、目が合ってしまいました。最初はばつが悪かったかもしれませんが、山茶花のお蔭で話が弾んで・・・という景が見えて来ます。天賞推挙のコメントにも書かれておりました。次に蒼樹さんの句「山茶花の紅鮮やかな長屋門」が、最多得票賞（☆印）を獲得しました。紅鮮やかな山茶花が長屋門の横に今や時と咲き誇っています。山茶花は赤い花も白い花も、華やかさというよりも。どことなく静けさ、寂しさを感じさせる花のように思われます。作者も鮮やかさの中に、それを感じておられるのではないのでしょうか。

当季雑詠の自由題は、季題が「冬」という出題でした。ここでは創風さんの句「星冴ゆるひとり夢見る露天風呂」が、天賞三つを獲得しました。コロナ禍中、温泉の露天風呂など暫くご縁がなく、この句にありますように、皆さんもご自宅のお風呂で「あゝ露天風呂」と、夢想されているのではないのでしょうか。この句には多くの共感が寄せられ、選者の票を獲得されました。次に歌多音さんの句「庭師入る鋏の音や冬支度」が、天賞二つを獲得しました。冬に向かう準備という庭の手入れ、木を剪定する鋏の音のリズムが快く響きます。この辺りに選者の共感を得られたのだと思います。次に晶如さんの句「何よりも干せし布団の陽の匂ひ」が、天賞一つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。陽に干された布団の匂いとは・・・、本当に懐かしい故郷の香を感じます。この句も多くの共感を得ました。言葉を挿む必要はないですね。次に月草さんの句「何がなし十一月が好き程良くて」が、天賞一つを獲得しました。「何だか11月が好きなのよ」と言われる作者のお気持ち、理屈はありませんね。下五に「程良くて」と言われるのですから、「成る程」と頷くしかありません。「11月の程の良さ」を味わうことにしましょう。次に栄女さんの句「曖昧な秋の記憶はセピア色」が、天賞一つを獲得しました。天賞推挙のコメントに「コロナ禍中、曖昧な記憶を残して過ぎ去っていく秋、やがて迎える冬を思う」という心境で居られるのでしょうか。下五の「セピア色」は面白いフレーズでした。

12月の予定は、11月26日のオンライン会議で決まります。また元気に提示される兼題に挑戦しましょう。オンライン会議では、日頃の疑問点が討議をされていますので、また新たな問題点が生じるかも知れません。こうした疑問が解かれて、より良い句会になって行くことでしょう。またまた元気に明るく通信句会を楽しみましょう。（白然記）